

- 1 単元名 くらべてよもう 題材「じどう車くらべ」光村図書1年上
- 2 目標
  - 自動車の「しごと」と「つくり」の関係に興味をもって読むことができる。  
(国語への関心・意欲・態度)
  - 3種類の自動車の「しごと」と「つくり」の関係を考えながら読むことができる。  
(読む能力)
  - 自動車の「しごと」と「つくり」の関係をとらえて、自動車図鑑を書くことができる。  
(書く能力)
- 3 指導上の立場
  - 児童の実態

削除しています。

○題材観

教材「じどう車くらべ」は、児童がよく知っている自動車を題材にしているので、興味・関心をもって主体的に読み進めていくことができるものとなっている。

本教材は、四つの意味段落からなり、第1段落で話題と問題提起、第2～4段落で3種類の自動車の「しごと」と「つくり」が同じ順序で繰り返し説明されている。そのため、児童が、「しごと」と「つくり」の二つの事柄の因果関係を理解しながら読み進めることができる。また、3種類の自動車が身近な車から特殊な車へと展開されており、児童は、自動車の「しごと」と、「しごと」を遂行するための「つくり」に驚きや発見の気持ちをもつことができると思われる。また、理由を表す『そのために』という接続語で「しごと」と「つくり」が結びつけられているので、規則性があり、文章構成の形式に気づきながら読むことができる教材である。

指導にあたっては、目的をもって読解させるために、学習計画に「自動車図鑑」を作ること位置付けておく。最初にこのような活動をするを知らせておくことによって、児童は目的意識をもって、自分の興味のある乗り物を調べたり書いたりしながら表現活動に取り組むことができると考える。

○本単元で工夫する点や手立て

**領域を有機的に結びつけた関連的な指導（読む・書く）  
説明文教材に、表現活動（書く活動）を取り入れた単元構想の工夫**

- ・単元の導入時には、教室に「じどう車コーナー」を設ける。自動車に関する本や模型などを学校図書館や家庭から持ち寄り、いつでも手にすることができるようにしておくことによって、自動車に興味をもてるようにするとともに、自動車図鑑を作ることへの意欲付けをする。
- ・3つの自動車を比べながら読み取るために、ワークシートを準備し、まとめていくようにする。ワークシートは、第3次で自動車図鑑を作るときのカードと同じような形式にし、乗用車・バス→トラック→クレーン車→自分が好きな車と段階を踏みながら少しずつ書き込む量を増やしていきたい。そして、自動車図鑑を作る段階では、自分の力で教材文を参考にしながらまとめていくことができるようにしたい。
- ・読み取りの際には、挿絵に読み取った「つくり」を書き込んだり、図鑑作りの際には、挿絵や写真に印をつけて「つくり」の説明を書き込んだりすることによって、挿絵と文章を正しく関連付けることができるようにする。

**学びを重ねていくことができるような系統的な指導  
児童に「学び方」「読み方」を意識させ、学んだことが使える力を育てる指導の工夫**

- ・学習計画を掲示しておくことによって、今どの段階を学習しているのか確認し、見通しをもちながら学習を進めることができるようにする。
- ・自動車の「しごと」は赤鉛筆、「つくり」は青鉛筆でサイドラインをひいたり、「しごと」と「つくり」をつなぐ言葉『そのために』を鉛筆で囲んだりすることによって、「しごと」・『そのために』・「つくり」という文章構成を理解することができるようにする。
- ・第2次で3つの自動車の「しごと」と「つくり」の関係を読み取ったあとに、第3次の第1時で本文の文章構成や接続語等に注目させる学習を1時間設定することによって、「しごと」と「つくり」を関連付けて説明する文章の書き方を理解し、自分が選んだ自動車の表現活動に生かすことができるようにする。

### 内容のおもしろさとそれを支えている書きぶりのおもしろさの両面を読む学習 活動の工夫

- ・「つりあげる」を動作化したり、比喩の言葉（「じょうぶなうで」、「しっかりしたあし」など）や難しい言葉（「ひろいにだい」、「車たい」など）を分かりやすい言葉に直したり、挿絵と対応させたりすることによって、語句の意味が理解できるようにする。

#### ○授業改善の視点

教材の読解を通して学習した表現方法を、自動車図鑑を書く活動に生かすことができる授業

#### 4 指導計画（全9時間）

- 第1次 学習の見通しをもち、自動車図鑑を作る計画を立てる。・・・・・・・・（2時間）
- 第1時 自動車図鑑作りに向けた学習計画を立てる。  
いろいろな自動車の写真や模型などを見せ、自動車の名前当てクイズをすることによって、自動車への興味・関心をもつ。
- 第2時 全文を読み、感想をもつ。  
本文を読み、問いかけの文を見つけ、読みの視点が「しごと」と「つくり」の二つであることを知る。
- 第2次 教材文の中の自動車の「しごと」と「つくり」の関係を考えながら内容を読み取る。（3時間）
- 第1時 バスと乗用車の「しごと」と「つくり」を読み取る。  
第2時 トラックの「しごと」と「つくり」を読み取る。  
第3時 クレーン車の「しごと」と「つくり」を読み取る。
- 第3次 自動車図鑑を作る。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（4時間）
- 第1時 教材文の文章構成や「しごと」と「つくり」の関係を理解する。（本時）  
第2・3時 自分が好きな自動車の説明文を書く。  
第4時 作品の交流をする。

#### 5 評価

- 自動車の「しごと」と「つくり」の関係に興味をもって読もうとしている。  
（国語への関心・意欲・態度）
- 3種類の自動車の「しごと」と「つくり」の関係を考えながら読むことができる。  
（読む能力）
- 自動車の「しごと」と「つくり」を説明する表現や文型を理解しながら、自動車図鑑を書くことができる。  
（書く能力）

6 本時案（第3次 第1時）

目標	3種類の車の説明文の文章構成や接続語等に注目する活動を通して、「しごと」と「つくり」を関係付けて説明する文章の書き方を理解することができる。
学習活動	指導・支援に関する配慮事項など
1 本時のめあてをつかむ。	<p>○好きな車について書いた説明文を、読む人に分かりやすく書くために、「じどう車くらべ」の本文の秘密を見つけようと教師が提案し、本時のめあてとする。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">「じどう車くらべ」のかきかたのひみつを見つけよう。</p>
2 文の構成を理解する。	<p>○黒板に3種類の自動車の説明文を書いたカードを縦に並べて貼り、比べることによって、「しごと」・『そのために』・「つくり」の順番に書かれていること気づくことができるようにする。</p> <p>○考えにくい場合は、皆でカードを縦に読み、書き方の似ているところを見つけやすくする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">予想される考え</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3つとも『そのために』がある。</li> <li>・3つとも「○○○のしごとをしています。」と書かれている。</li> <li>・3つとも「しごと」『そのために』「つくり①」「つくり②」の順番で書かれている。</li> <li>・3つとも文末が「～ます。」になっている。</li> </ul> </div> <p>○黒板に貼ったカードの「しごと」を赤で囲み、『そのために』を黄色で、「つくり」を青で囲むことによって、どの車も「しごと」・『そのために』・「つくり」が同じ順番に書かれていることが視覚的に分かるようにする。</p>
3 接続語『そのために』の役割を考える。	<p>○はしご車の挿絵を見て、はしご車にしかない「つくり」を見つけ、発表する中で、はしご車特有の「つくり」に興味をもつことができるようにする。</p> <p>○児童が見つけた「つくり」がはしご車の「しごと」に関わっているか、一つ一つ検証していく中で、「しごと」に必要な「つくり」を選ぶことができるようにする。</p> <p>○「しごと」と「つくり」が結び付かない例も挙げることによって、『そのために』が「しごと」と「つくり」を結び付ける言葉であることが理解できるようにする。</p> <p>◎文の構成や接続語の役割が理解できたか。</p>
4 本時のまとめをする。	<p>○次時では、本時で学習した「じどう車くらべ」の書き方の秘密を使いながら、自分が好きな車の「しごと」と「つくり」を説明する文を書くことを知らせる。</p>